



JPF NEWS

認定NPO法人
ジャパン・プラットフォーム
2014 Autumn Vol.13



広島土砂災害では、直後より多くの企業の皆様から様々な物資支援のお申し出をいただきました。写真は(株)LIXILビバ様提供の作業用長靴 ©JPF

ごあいさつ

2014年度も残すところ約1ヶ月となりました。今年も、残念ながら国内外で多くの自然災害、紛争が相次ぎました。昨年11月から約半年間活動を継続したフィリピン台風30号(ハイエン)被災者支援では、多くの企業・個人の皆様からご支援をいただき、効果の高い支援事業を展開することができました。8月の中国雲南省地震、広島土砂災害の被災者支援においては、迅速な出動決定に企業・個人の皆様から多様な支援のお申し出をいただき、JPF加盟NGOや現地団体の皆様との連携に尽力しながら支援を進めて参りました。また、海外における紛争の被災者支援には、複数年をまたいで多様な活動を継続しています。改めて皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ジャパン・プラットフォーム 事務局長 飯田修久

CONTENTS

事業報告

広島土砂災害被災者支援 P.2

中国雲南省地震被災者支援2014 P.3

パレスチナ・ガザ人道支援2014

イラク国内避難民支援2014 P.4

「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン
NGO能力強化研修事業 P.5

モニタリングレポート

シリア紛争人道支援 P.6

南スーダン緊急支援2014 P.7

お知らせ

ジャパン・プラットフォーム事務局長 就任挨拶 P.8

「東京の中心で4年目の東北が見えるフォーラム」を開催

国際協カイベント「グローバルフェスタ2014」出席

ジャパン・プラットフォーム加盟NGO紹介

特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン P.7

JPF加盟NGO一覧 P.8

支援企業・団体一覧／支援のお願い



広島土砂災害被災者支援

皆様からの迅速なご支援のお申し出に感謝いたします

2014年8月19日夜から20日未明にかけて発生した広島市安佐南区、安佐北区の局地的な豪雨により、大規模土砂災害が発生。死者74人、住宅被害全壊174棟、半壊187棟、床上浸水1,166棟、床下浸水3,080棟という大きな災害となりました*。

発災直後より多くの企業・団体、個人の皆様が様々な支援のお申し出をくださり、最終的に88の企業・団体、個人の皆様から、総額3,242万4,213円ものご支援金および支援物資をお寄せいただきました。JPF一同、改めて心より御礼申し上げます。(現在、寄付受付は終了しております。活動のご報告、ご支援いただいた企業・団体様については<http://www.japanplatform.org/programs/hiroshima-landslide2014/>にて公開しています。)

JPFでは、被害発生直後から情報収集を開始、発災当日には迅速な支援活動実施に向けた被害状況等の調査のため、スタッフ1名を現地に派遣しました。地元NPO、JPF加盟NGO、広島市、広島市社会福祉協議会、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、日本青年会議所などから情報収集をし、支援の調整・支援者の連携促進に寄与するとともに、資金助成等を通して加盟NGOの支援活動をサポートしました。

また、様々な企業から多数の物資支援のお申し出をいただき、安佐北区・南区の災害ボランティアセンターで使用する飲料水やスコップ、一輪車などの資機材を現地にお届けする物資マッチングを実施しました。

現場では、支援体制としてボランティアの派遣調整の仕組みが少しずつ構築されながらも、支援ニーズの把握が難しい状況が続きました。JPFでは国内外での支援経験が豊富な加盟NGOとともに被災地域のモニタリング体制を構築し、避難所、在宅避難者等からのニーズの把握につとめ、人道的見地から必要な支援につなげることに尽力しました。

災害発生から11月までに、加盟NGO4団体(PWJ、PBV、TMN、JAR ※P.07参照)が、行方不明者捜索活動および避難所の

支援、特に配慮が必要な高齢者、女性、子どもなど脆弱層といわれる方々へのサポート、ボランティアコーディネーターの派遣による効率的復旧支援活動、避難所やその周辺を対象としたキッチンカーでの炊き出しカフェ等の支援を展開。現在も、避難生活が継続されていることから、各加盟NGOは東日本大震災での経験や専門性を活かし、高齢者、女性、子どもなどへの支援も視野に入れて活動を展開しています。JPF事務局としても、引き続き加盟NGOのサポートおよび支援の連携・調整、企業支援のマッチングを行っていきます。

※広島県災害対策本部 2014年11月14日

支援者間の連携・調整 — 今後の災害対応のために

JPF国内事業部長 明城徹也

JPFの支援活動への皆様のご理解・ご支援に、心より感謝申し上げます。自然災害への対応においては、NGO、地元団体、行政など現地における支援者間の連携・調整が欠かせません。今回の広島県における土砂災害において、JPFスタッフは災害発生当日から現地入りしました。このような緊急の出動は、1秒でも早い現地状況の調査によるニーズの確認に加え、支援者間の連携体制へのサポート、企業との情報共有や現地ニーズとのマッチング等の調整を行うことも大きな目的のひとつです。

東日本大震災からもうすぐ4年目を迎えます。被災地の真の復興を願う一方で、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震などの発生も危惧されています。東日本大震災における民間の動きを振り返ると、一人ひとりのボランティア、NPO・NGO、企業等が、被災地域の支援に大きく貢献してきましたが、連携・協働という観点からは、多くの課題が残されました。

東日本大震災発生直後から現在まで、JPFが行ってきた連携強化のための取り組みは、今後起こりうる国内大災害への対応にあたって重要性を増していくものと考えています。今後の災害対応のために、その経験とノウハウ、ネットワークを最大限活かすことができるよう、尽力してまいります。



PWJの災害救助犬は、消防・警察などと協力し被災者の捜索、救助にあたりました



JPFスタッフが撮影した復旧作業現場の様子



加盟NGOとともに被災地域のモニタリング調査、避難所、在宅避難者等からのニーズの把握に尽力しました



PBVは避難所やその周辺対象において炊き出しカフェで支援しました



中国雲南省地震被災者支援2014

緊急物資、学校再開のための支援を実施。寒さ対策も急がれる

2014年8月3日、現地時間4時30分頃に発生したマグニチュード6.5の地震は、中国雲南省魯甸県を中心に大きな被害をもたらしました。死者617人、100人以上が行方不明となり、全壊家屋は8万軒、半壊家屋は13万軒を数え、およそ23万人が避難生活を余儀なくされました*。

JPF加盟NGOは8月4日から直ちに現地調査を開始し、食糧や生活物資の配布を行うことで現地の緊急ニーズに応じてきました。また、夏休み明けの学校再開に間に合うよう、学用品を配布するとともに教室用の仮設テントを設置しました。

最も被害が大きかった地域の一つ、火徳紅鎮の被災者は仮設集合テントに避難していますが、この地域は山間部で、防災直後には落石や土砂崩れが頻発しました。そして、降り続く大雨で川が氾濫し、洪水被害にさえ見舞われたので、住民は身に着けていたもの以外はすべて失った状態でした。

周辺は冬になると積雪があるほど気温が下がるので、結露や厳しい寒さを懸念する声が上がっています。そこで、加盟NGOは、

防湿マットや冬用衣服の配布を行い、被災者に安心して冬を迎えてもらえるよう迅速な支援を実施しています。

※出典：新華社通信 2014年8月7日、10日



倒壊した火徳紅鎮、李家山村の家屋



教室用テントや給食配膳などの支援をした小学校の児童たち



パレスチナ・ガザ人道支援2014

事業期間を6ヶ月、資金規模を2.2億円に拡大

2014年6月、7月のイスラエル、パレスチナの両国における青少年の殺害事件を発端に、ガザ地区は大規模な戦闘状態に陥りました。JPF加盟NGOはその後8月から活動を開始しましたが、治安の急激な悪化が物資配布と運搬の大きな障害となり、ガザへの物資搬入は困難を極めました。しかし、現地スタッフのモチベーションは高く、食糧や生活用品、医療器具の配布、子供の保護などに継続的に取り組んでいます。

2014年11月現在、少なくとも2,256人のパレスチナ人と、71人のイスラエル人が死亡。52,000世帯の家屋が被害を受け、シェルターの修理が必要で*。また、戦闘に巻き込まれたり、家族の死で心身にダメージを負った子どもたちをケアするため、心理社会的な支援が喫緊の課題です。JPFは2014年9月に事業規模拡大を決定して支援を継続中です。皆様からの支援金も募集しています。



児童館における子ども支援の様子

※出典：UNRWA - Gaza Situation Report 68, 4 Nov 2014



イラク国内避難民支援2014

氷点下の冬を越すための早急な越冬支援が必要

イラク北部を中心に勢力を伸長する、ISIL(イラクとレバントのイスラム国)の影響を受け、2014年10月11日現在、約180万人もの市民が戦闘を逃れて避難しています*。そのうち約85万人は、イラク北部のクルド自治区に避難しており、JPF加盟NGOは越冬支援を中心に、食糧の配布、水・衛生支援、生活物資の配布などの支援を行っています。イラク北部は冬には気温は氷点下となることから、国際連合人道問題調整事務所(UNOCHA)も「着の身着のままに逃げてきた避難民が、冬を越すための支援を早急に実施する必要がある」と警鐘を鳴らしています。

JPFは、2014年6月から出動を決定し支援を実施していますが、悪化する状況を鑑み、7月から事業規模を拡大して支援活動を実施していくことを決定。あわせて広く民間からも支援金を募集中です。



クルド自治区シンジャールから逃れて国内避難民となった女性

※出典：UNOCHA Displacement - Humanitarian Snapshot, 11 OCT 2014



「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン

世界の各都市で同時開催。アフガニスタン支援に関わる日本のNGO16団体が結集

「忘れないでアフガニスタン」キャンペーンは、12月4日にロンドンで開かれるアフガニスタン復興に関する国際会議に合わせ、アフガニスタンのNGOネットワーク(ACBAR(アクバル):120のNGOで構成)の呼びかけにより、世界各地の主要都市で同時開催された世界的なキャンペーンです。JPFは東京における「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン事務局として、日本のNGO15団体とともにさまざまなキャンペーン活動を行いました。

11月24日の築地本願寺でのイベントでは、アフガニスタンのパーミヤンを舞台にした映画「子供の情景(監督:ハナ・マフマルバフ製作:イラン/フランス 2007年製作)」を上映し、アフガニスタンに関わるNGOスタッフらのトークセッションを行いました。世界各地で紛争や自然災害、難民問題など多くの危機が起こり、10年以上続くアフガニスタンの困難な状況に対する国際社会の関心は急速に薄れつつあります。このイベントを通じて、日本をはじめ世界各国がアフガニスタンの復興支援に取り組んでおり、これからも支援が必要なこと、アフガニスタンを忘れないでほしいことを訴えました。

また、「忘れないでアフガニスタン」のプラカードを掲げSNSに投稿するアクションは、誰でも手軽にできるアクションとして、多くの方にご賛同いただきました。キャンペーンの様子は、JPFのブログやFacebookなどでご報告しています。アフガニスタンで活動するNGOの様子がわかる <http://afpk.japanplatform.org/> もぜひご覧ください。



「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン事務局としてJPFスタッフもプラカードアクションに参加



NGO能力強化研修事業

事業報告

「リーダーシップ・ワークショップ」、「緊急人道支援ワークショップ」を開催

JPFは、9月25～26日に「リーダーシップ・ワークショップ—Developing & Sustaining High Performing Teams—」、10月26～31日に「緊急人道支援ワークショップ—Humanitarian Response Workshop—」を開催しました。

管理職やチームリーダーを対象にした「リーダーシップ・ワークショップ」では、米国NGO Mercy Corpsの講師 Dr. Kristin Hibler氏を講師に迎え、「チームメンバーや部下から最高のパフォーマンスを引き出すための秘訣」や「奮起させるために重要な3つの要素」など、講師の豊富なNGO経験や実績から導き出された、優れたリーダーシップ論が解説されました。講師の人間味あふれるストーリーやユーモアたっぷりのリードのもと、多様な能力、経験、関心を持ったスタッフのモチベーションをいかに上げてうまく機能するチームにすることができるか、日本のNGOに適したリーダーシップについて、参加者が自身の成功体験や直面している課題を共有しながら意見交換を行いました。

「緊急人道支援ワークショップ」には、中国、台湾、韓国を含む合計26人のNGOスタッフが参加し、5泊6日に渡り、緊急人道支援

活動において必要な知識や国際スタンダードを学びました。最終日には、実際に緊急事態が起こったという設定でシミュレーションを実施し、1週間を通して学んだことを駆使しながら、よりよい支援のために被災地で丸となって活動することの大切さを学びました。



「リーダーシップ・ワークショップ」にて(中央が米国NGO Mercy Corpsの講師 Dr. Kristin Hibler氏)



「緊急人道支援ワークショップ」最終日のシミュレーションの様子



シリア紛争人道支援

シリア紛争人道支援／イラク国内避難民支援2014 周辺4カ国をモニタリング

「私の子どもはまだシンジャールの山の中にいるんです。今朝まで携帯電話が通じましたが、もう連絡は取れなくなりました。」
2014年8月2日、イラク北部のクルド自治区のシンジャールにISIL（イラクとレバントのイスラム国）が侵攻しました。私たちが出会った女性は、そこから逃れて国内避難民となってからまだ2日しか経っていない状況を、まだ混乱している避難所で涙ながらに話しました。

今回のシリア紛争人道支援／イラク国内避難民支援2014のモニタリング出張では、約1ヶ月間かけてシリア周辺4カ国（イラク、トルコ、レバノン、ヨルダン）のフィールド訪問と、各国の国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）をはじめとする国連機関を訪問してきました。冒頭の状況は、イラク滞在時に、8月8日放送NHK BS1「国際報道2014」にてLIVEインタビューという形でお伝えすることができました。

昨年、ISILによりシリア国内の紛争はさらに激化し、シリアのみならずイラクにおいてもより多くの国内避難民、周辺国への難民の流出が続いて

います。紛争が長びく中、難民としてホスト国に事実上定住せざるを得ない人々には教育など長期的なサポートが求められ、着の身着のままに逃げてきて間もない難民には食料や衣類など物資ニーズが高い等、必要とされる支援も多岐にわたっていました。今から一年前に誰がISILの台頭を予見したでしょうか。JPFでは、引き続き様々な不確定要素と突発的な状況に柔軟に対応しながら支援を継続して参ります。（海外事業部 月岡悠・鳴海亜紀子）



CCPが実施している心理社会的サポートクラスの風景。絵を描くという自己表現を通じて子どもたちが心の中にため込んでしまっているストレスや感情を少しずつ表に出してもらい精神の安定をサポートします



KnKが実施している補習授業に参加している子ども（写真右側）と彼女の妹。着の身着のままに逃げてきても、長引く避難生活の中、お母さんは子どもたちの教育に熱心に取り組んでいます



南スーダン緊急支援2014

ケニア、エチオピアのモニタリングで聞いた、日本のNGOへの信頼と期待の言葉

2014年2月より実施している「南スーダン緊急支援2014」プログラムのモニタリングため、事業地のケニアのカクマ難民キャンプとエチオピアのガンベラ州を訪問しました。

1990年代にスーダン（現南スーダン）難民を受け入れた経験のあるカクマ難民キャンプでは、戦闘が始まった2013年12月末からキャンプを拡張し、その後比較的早い段階で教育を含む支援がなされていました。一方、キャンプ敷地の造成から始まったエチオピアのガンベラ州では、受け入れる難民の多さに対応が追いつかず、モニタリングで訪問した10月になってようやく簡易教室での授業が始まるという状況でした。エチオピアの難民キャンプの子どもたちに「学校がない間はどのようにしていたの？」と尋ねると、「教会でみんなと学びながら過ごしていた」とのこと、授業を受けられることを心待ちにしていたことが伺えました。

モニタリングの聞き取りで、JPFがこれまで南スーダン国内で支援した活動について、難民の皆さんから言及がありました。JPF/NGOへの感謝の気持ちと、それらのNGOであれば必ず支援を実現させてくれるという安心と信頼の言葉でした。（海外事業部 板倉純子）



2014年4月にAARIにより設置されたテント教室（ケニア・カクマ難民キャンプ）



小学校5～8年生がJPFチームを迎えてくれました（エチオピア・クレ難民キャンプ）



ジャパン・プラットフォーム事務局長 就任挨拶

日頃よりジャパン・プラットフォーム（JPF）をご支援いただき、深く御礼申し上げます。今般、JPF 理事会において、事務局長に選任されました。

これまでに多大なご支援をいただいている多くの企業・個人の皆様に心より感謝申し上げます。JPFでは、今後ともNGOならではの強みを活かした、これまで以上に効果的な支援展開を目指してまいります。引き続き皆様方のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

国内外で大規模な自然災害の発生が相次いでおり、地震や台風などによる被害は、その規模を年々拡大している様相を呈しています。また、東日本大震災による災害は、いまだに復興へ向かう道筋が難航している状況が多く残されていることも現実です。

一方で、中東やアフリカ地域で長引く紛争もたらす難民・避難民の数は、増加の一途をたどっており、世界中では5,000万人以上が避難を余儀なくされています*。

*2013年末時点で紛争、迫害や人権侵害のため移動を強いられた人の数は5,120万人に上る(Global Trends 2013, UNHCR, June 2014)
このような状況に対して、日本のNGOの信頼性、プレゼンスを向上し、さらに効果を高めた支援を実現するためのJPFのあるべき姿を作り上げていくことが重要なステージになっています。

非才の身には甚だ重く感じられる大任ですが、関係者の皆様とともに、JPFビジョンの実現に向け責務を全うしたいと存じます。

JPFはこれからも、自然災害による被災者、紛争による難民への緊急人道支援のため、NGO、経済界、政府と連携した日本発のより良い支援を目指し、尽力してまいります。

引き続き、皆様のご支援とご鞭撻を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2014年10月吉日

特定非営利活動法人(認定NPO法人) ジャパン・プラットフォーム
事務局長 飯田 修久



飯田 修久(いいた のぶひさ)

2014年10月より、認定NPO法人 ジャパン・プラットフォーム 事務局長。1983年、東海大学大学院 博士課程 前期修了。経営工学修士。同年、財団法人日本情報処理開発協会 調査部 入社。1995年、国際デジタル通信株式会社 経営企画室課長。1999年 Cable & Wireless IDC (旧国際デジタル通信) 経営企画部担当部長、政府渉外部長。2004年、フィリップモリスジャパン株式会社 政府渉外規制担当マネージャー。

2014年12月11日

東京の中心で4年目の東北が見えるフォーラム —ジャパン・プラットフォームのコーディネーターの役割— 参加申込み受付中

東日本大震災から、間もなく4年。JPFは、震災直後から東北被災3県に常駐スタッフを置き、支援活動を進めてまいりました。これまでにご支援をお寄せいただきました企業、個人の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

現在被災地では、復興に向け多くの課題を抱える人々への支援はもちろん、さらに、被災地の課題を把握し多様なセクターからの支援リソースを現地につなぐ役割の必要性が浮き彫りになっています。このたびJPFは、東北の現状について、東京において皆様とともに考える会を以下のとおり開催します。東北被災3県の中間支援組織や支援者ネットワークにおける連携をサポートしてきたJPFスタッフ、地元の助成先団体、現地キープパートナーなどが、これまでの活動実績とこれからの復興に求められることを生の声でお伝えいたします。

- ◆ 日時：2014年12月11日(木) 15:00~17:30
- ◆ 場所：大手町ファーストスクエアカンファレンスRoomA
(東京都千代田区大手町1-5-1 ファーストスクエアイーストタワー2F)
- ◆ 定員：先着100名程度(参加無料)
- ◆ 要事前予約
以下URLより申込みフォームにご記入ください(12月8日メ切)
<http://www.japanplatform.org/event/20141211tohoku/>
- ◆ 主催：認定NPO法人 ジャパン・プラットフォーム
- ◆ お問い合わせ先：JPF事務局(坂巻、高杉、小林)
TEL:03-6261-4750 FAX:03-6261-4753
E-Mail: houkokukai@japanplatform.org
(氏名、ご所属、電話番号、E-mailを明記ください)

国際協力イベント 「グローバルフェスタ2014」に出展

JPFは、日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ2014」に今年も出展しました。二日間でのべ7万7546人が来場した本イベントにて、JPFブースでは日頃の人道支援活動の情報を知っていただくため、フェイスブック「いいね!」キャンペーンを実施。もうすぐ3,000いいね!に到達するまでとなりました。

2日目は、あいにくの悪天候のために午前中のみ開催となりましたが、NGO団体の皆様はもちろん、国際協力に興味をもつ学生や一般の方々や直接お会いしてお話をする事ができ、有意義な2日間となりました。たくさんの皆様のご来場をいただき、誠にありがとうございました。



外務省国際協力局の石兼局長と、同局民間援助連携室の江原室長がJPFブースに来てくださいました

特定非営利活動法人

パレスチナ子どものキャンペーン (CCP Japan)



パレスチナ子どものキャンペーン

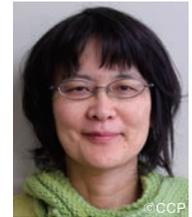
パレスチナの子どもたちに希望を

パレスチナ難民の発生から70年近くたちますが、いまだに世界の難民の3人に1人※1はパレスチナ人です。ここ数年だけを見てもシリア内戦の激化、繰り返されるガザへの空爆と軍事侵攻など、パレスチナ人を取り巻く状況はかえって悪化していると言えます。

パレスチナは人口の半数が16歳以下という若い社会です。非常に厳しい状況でも生活の安定を取り戻し、子どもたちが将来に希望を見出していけるような継続した支援が必要とされています。

パレスチナ子どものキャンペーン(CCP Japan)は、1986年の設立以来、パレスチナの未来である子どもたちに対して、ガザ地区やヨルダン川西岸、レバノンの難民キャンプ等で、教育、保健と

心理、農業と環境、人権と平和などの支援事業を実施してきました。当会が創立に関わったアトファルナろう学校、ナワール児童館、子ども歯科、補習クラス、ガザの育苗事業などは、パイロット事業として現地で知られ、長いものは20年以上の実績を持っています。



事務局長 田中好子

CCPは現地NGOとの協働を常に重視し、持続的で柔軟性、発展性のある活動をめざしています。また長期にわたる現地の市民との交流や現場からの発信を基にして、中東平和の実現のために日本での世論喚起にも力を入れています。

ガザ緊急支援とシリア難民支援

この夏のガザ地区への軍事侵攻では、破壊と多くの犠牲者に加えて人口の4分の1※2が避難を余儀なくされるという事態が起こり、当会では緊急支援事業を実施中です。障害者世帯を含む1,000世帯以上に対する食料や生活物資の配布。子どもたちへの学用品の提供、1,500人以上の子どもたちの居場所づくりと心理サポートを継続し、被害農家への復興支援も予定しています。

またシリア内戦によりレバノンに逃れてきた100万人※3を超える難民の中でも、1984年イスラエル建国に伴いシリアに逃れ、2011年のシリア紛争により第二の故郷を追われ、再び難民となったパレスチナ人への支援も継続中です。物資配布のほか、幼稚園と学童保育、歯科と精神科の診療、心理サポートなどを実施しています。



心理サポートの一環として実施した遠足で、笑顔を見せるガザの子どもたち



食料や生活必需品の物資配布を受ける子ども

※1 出典：UNHCR Global Trends 2013 ※2 出典：Gaza Emergency Situation Report 25 August 2014 ※3 出典：UNHCR Syria Regional Refugee Response 04 Nov 2014

JPF加盟NGO一覧(48団体)

- | | | | |
|-------------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|
| AAR Japan [難民を助ける会] (AAR) | ホープ・インターナショナル開発機構 (HIDA) | ジャパンハート (JH) | バルシック (PARCIC) |
| ADRA Japan (ADRA) | 災害人道医療支援会 (HuMA) | 国際インフラパートナーズ (JIP) | ピースボート災害ボランティアセンター (PBV) |
| ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ) | ICA文化事業協会 (ICA) | ジョイセフ (JOICFP) | プラン・ジャパン (PLAN) |
| BHNテレコム支援協議会 (BHN) | アジア日本相互交流センター (ICAN) | 日本レスキュー協会 (JRA) | ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) |
| ケア・インターナショナルジャパン (CARE) | 国際協力NGO IV-Japan (IVJ) | 日本赤十字社 (JRCS) | 日本リザルツ (RJP) |
| パレスチナ子どものキャンペーン (CCP) | IVY (IVY) | 国境なき子どもたち (KnK) | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) |
| Civic Force (CF) | JADE-緊急開発支援機構 (JADE) | ミレニウム・プロミス・ジャパン (MPJ) | SEEDS Asia (SEEDS) |
| CWS Japan (CWS) | アジア協会アジア友の会 (JAFS) | 日本ユネスコ協会連盟 (NFUAJ) | シャンティ国際ボランティア会 (SVA) |
| 国境なき技師団 (EWBJ) | 難民支援協会 (JAR) | 日本国際民間協力会 (NICCO) | タイ日教育開発 (TJED) |
| エフエムわいわい (FMYY) | 日本救援行動センター (JARC) | ONE ASIA (OAJ) | 遠野まごころネット (TMN) |
| グッドネーバース・ジャパン (GNJP) | 日本紛争予防センター (JCCP) | オペレーション・ブレスリング・ジャパン (OBJ) | わかちあいプロジェクト (WP) |
| ハピタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン (HFHJ) | ジェン (JEN) | オックスファム・ジャパン (OXFAM) | ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) |

※ 略称によるアルファベット順

支援企業・団体一覧

| |
|-------------------------------|
| アサヒグループホールディングス株式会社 |
| 株式会社アシックス |
| 味の素株式会社 |
| アメリカン・エキスプレス・インターナショナルInc. |
| 株式会社アルファネット |
| イオンモール株式会社 |
| 株式会社伊藤園 |
| 伊藤忠商事株式会社 |
| 株式会社海 |
| 株式会社エイアンドエフ |
| SMK株式会社 |
| MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 |
| オムロン株式会社 |
| オリックス株式会社 |
| 花王株式会社 |
| キッコーマン株式会社 |
| キヤノン株式会社 |
| JXホールディングス株式会社 |
| 地震防災ネット |
| スターツコーポレーション株式会社 |
| スターツ首都圏千曲会 |
| 住友化学株式会社 |
| 住友商事株式会社 |
| 住友生命保険相互会社 |
| 全日本空輸株式会社 |
| 双日株式会社 |
| ソニー株式会社 |
| ソフトバンクテレコム株式会社 |
| 株式会社損害保険ジャパン |
| 株式会社大和証券グループ本社 |
| 武田薬品工業株式会社 |
| 立山科学工業株式会社 |
| ダンアンドブラッドストリートジャパン株式会社 |
| 中外製薬株式会社 |
| 帝人株式会社 |
| 東京キリンビバレッジサービス株式会社 |
| 株式会社東芝 |
| 株式会社東陽 |
| 東レ株式会社 |
| トヨタ自動車株式会社 |
| 鳥居薬品株式会社 |

| |
|--------------------|
| Dream World OHATA |
| 株式会社ニチレイ |
| 日産自動車株式会社 |
| 日清紡ホールディングス株式会社 |
| 日本ペイント株式会社 |
| 日本エマーゼンシアシスタンス株式会社 |
| 日本ゼオン株式会社 |
| 日本たばこ産業株式会社 |
| 日本郵船株式会社 |
| 野村ホールディングス株式会社 |
| 株式会社博報堂DYホールディングス |
| パナソニック株式会社 |
| 株式会社パリュープランニング |
| ヒゲタ醤油株式会社 |
| 株式会社日立製作所 |
| ヒトワット合同会社 |
| 財団法人ひろしま国際センター |
| ファイザー株式会社 |
| 富士ゼロックス株式会社 |
| 富士通株式会社 |
| 富士フイルム株式会社 |
| 株式会社プリチストン |
| 株式会社文化工房 |
| 株式会社マネースクウェア・ジャパン |
| 三井物産株式会社 |
| 三菱金曜会 |
| 三菱財団 |
| 三菱地所株式会社 |
| 矢崎総業株式会社 |
| 安田不動産株式会社 |
| ヤフー株式会社 |
| 株式会社UKCホールディングス |
| 株式会社LIXIL |
| 株式会社リコー |
| 株式会社良品計画 |
| 株式会社リンクレア |
| 霊友会 |

本一覧では「賛助会員」などにより、JPFの運営を平時からご支援いただいている企業を掲載しています。

様々なサポート

| |
|----------------------|
| Earth@Music |
| イオン1%クラブ |
| 株式会社NTTPCコミュニケーションズ |
| 公益社団法人関西経済連合会 |
| 公益社団法人経済同友会 |
| 公益財団法人KDDI財団 |
| 一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン |
| 株式会社ジャックス |
| スターツ出版株式会社 |
| 株式会社セールスフォース・ドットコム |
| 太陽有限責任監査法人 |
| 株式会社ディ・エフ・エフ |
| 一般社団法人日本経済団体連合会 |
| 日本公認会計士協会 |
| 日本商工会議所 |
| 日本通運株式会社 |
| 日本電気株式会社 |
| 株式会社はてな |
| 株式会社ハブネット |
| 公益財団法人パブリックリソース財団 |
| ビー・エム・ダブリュー株式会社 |
| 株式会社PR TIMES |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 森洋一公認会計事務所 |
| ユナイテッドピープル株式会社 |
| 株式会社りそなホールディングス |
| 株式会社ローランド・ベルガー |
| 1% (ワンパーセント) クラブ |

賛助企業・団体の他にも様々な企業・団体の皆様に、本業を活かしたサポートによりJPFの運営を支えていただいております。

五十音順 敬称略

このほかにもご支援を頂いている多くの個人の方々、また特定の事業でご支援いただいている企業・団体の方々には、皆様のお名前を掲載することができず申し訳ありませんが、ここに心より御礼申し上げます。今後ともご支援のほど、宜しくお願い致します。

JPFマンスリーサポーターのポスターを掲示して下さる企業様を募集中!

社会貢献の一環として、社員食堂等の社内共有スペースにJPFマンスリーサポーター制度の案内をして下さる企業様を募集しています。これまでに、株式会社りそなホールディングス様、日本電気株式会社様、日本通運株式会社様が社内での掲示を開始してくださいました。多くの皆様に共感いただき、マンスリーサポーターとしてJPFの活動を支援いただいていることに感謝申し上げます。JPFマンスリーサポーターは「今、支援を必要としている人々のために。そして、将来の災害や人道危機に備えるために。」1日30円からできる災害・人道支援です。皆様の継続的なサポートをお願いします。



支援のお願い

ジャパン・プラットフォーム (JPF) は皆様からのご寄付に支えられ、活動を展開しています。

1

企業・団体の皆様へ 【企業・団体賛助会員のご案内】

JPFの主旨に賛同し、活動を継続的にバックアップして下さる企業・団体を募集しています。会員の皆様は、JPFの活動に関する提言や国内外の様々な情報提供を通じて、JPFの活動にご参加いただけます。年会費：1口 50,000円

| | | | | |
|-------|------|------------------------|------|---------|
| 銀行振込先 | 銀行名 | 三菱東京UFJ銀行 | 支店名 | 本店 |
| | 口座種類 | 普通 | 口座番号 | 0717028 |
| | 口座名義 | 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム | | |
| | フリガナ | トクヒ) ジャパンプラットフォーム | | |

2

個人の皆様へ 【マンスリーサポーターのご案内】

今、支援を必要としている人々のために。そして、将来の災害や人道危機に備えるために。1日30円からできる災害・人道支援です。いつ起きるか予測できない災害に備え、個人の皆様の継続的なサポートをお願いします。

オンラインでお申込みいただけます

<http://www.japanplatform.org/support/jpf.html>

その他、事業を指定してご寄付いただく方法もございます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



特定非営利活動法人 (認定NPO法人) ジャパン・プラットフォーム

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-6-5 麹町GN安田ビル4F

TEL: 03-6261-4750 FAX: 03-6261-4753

【東北事務所】 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-14-24 仙台松井ビル6階

www.japanplatform.org

Japan Platform (ジャパン・プラットフォーム)

@japanplatform

@jpf_kokunai (国内事業部)

©2014 Japan Platform All rights reserved

(2014年11月発行)